

いずよう魅力化協議会だより

No.1 令和6年7月17日 島根県立出雲養護学校

6月13日(木)に、令和6年度第1回魅力化協議会を開催しました。ランドデザイン、学校経営プラン、学校評価の説明を行った後、本校の子どもたちが学習について発表をしました。そして後半は、グループに分かれての協議を行いました。

委員の皆様のご紹介

今年も昨年に引き続いて13名の個性的な委員様にご協力いただきます。どうぞよろしくお願いいたします。委員の皆様には「今年度のいずよう魅力化協議会に期待すること」をお聞きました。それもあわせて紹介します。

赤木 亮一	神西コミュニティセンター長	学校の応援団として全面的にバックアップできる会になってほしいです
稲根 克也	出雲市観光協会事務局長	学校と地域のヒト、コト、モノを繋ぐことのできる会になってほしいです
宇谷 留美	元PTA会長	子どもたちやその親に1人でも多くの人が寄り添った世の中にしてほしいです
片岡 久	さざなみ学園長	出席してお互いが「よかったな」となる会を期待します
神田 陽二	三刀屋文化体育館アスパル館長	生徒の皆さんのプロジェクトやアイデア、日々の取り組みをしっかりと発信できる会になると良いです。
金築 希	PTA会長	今年度も学校、地域、家庭が三位一体となった、子どもたちの良さを引き上げる会になる予感しかありません
川上 雅文	荒茅保育園長	子どもたちとワクワクできる場所を作れる会であることを期待します!
武部 豪	石見銀山世界遺産センター	子どもたちが活躍できる場を増やす
西村 健一	島根県立大学教授	学校を中心として家庭や地域が集まり、「チームいずよう」をつくること!
堀西 雅亮	島根県外国人サポーター	今年度も、こども、おとな、分野、地域、言語...などを超えて一人一人の経験、思い、やさしさをシェアし合える会でありたいですね!
松下 怜司	麵屋松代表	協議会での活動内容が生徒・保護者にしっかり周知され、学校や地域が生徒にとって安心・安全・大切な場所であると思える組織づくりにつながることを期待します!
森山 和子	OfficeSou代表	一人一人の出養への思いやリソースを活用し、出養の発展に繋がるよう連携してがんばりましょう!
山根 浩	神戸川やまびこ代表	Challenge

学 習 発 表

☆肢体不自由グループ・中学部

今年度取り組む、ペットボトルキャップの回収運動についてのお知らせやお願いをしました。これは山陰合同銀行の事業である「小さな親切」運動の一つで、ペットボトルキャップを集めて世界の子どもにワクチンを届ける基金につなげる地域貢献活動です。

委員様からは「みんなの元気のよい発表がとてもよかった。これからも頑張ってもらいたい。」などと生徒たちにメッセージをいただきました。



☆高等部地域サービス班

協議会の会場でコーヒー（「いずようブレンド」）を淹れ、参加者に振舞いました。会場にはコーヒーの香ばしい香りが漂っていました。



協 議

☆地域と連携・協働した学習について～保護者の視点を踏まえて～

3名の保護者様に、地域とのかかわりで感じていることとお話していただきました。その後3つのグループに分かれ、これまでの地域と連携・協働した学習について、保護者の視点も踏まえて協議しました。3名の保護者の方からの話と各グループから出た意見の一部を紹介します。

金築様（高等部生徒保護者）のお話より

小さい頃から、困った時には、地域のさまざまな方に助けてもらっていたそうです。学校に入学してからは、教員や放課後デイの方と一緒にお子様のことを考えたり、伝えあったりしてこられたとのこと。これまでの中でたくさんの出会いがあり、その出会いに感謝の気持ちをもっておられるというとても温かいお話でした。



木村様（肢体不自由グループ生徒保護者）のお話より

校外学習の際、肢体不自由の子どもが食べやすい食事の形態を準備してもらい、外食の経験ができたことは、家族の自信につながったそうです。一方で、肢体不自由の子のおでかけでは、まだまだ地域の環境は整っているとはいえないと感じることもあるそうです。道の駅湯の川に新しい多目的トイレでき、ぜひ行ってみたいとのことでした。

宇谷様（卒業生保護者）のお話より

お子様は、小さなころから地域のいろいろな方にたくさんの愛情を注いでもらい、現在は地元で就労をされています。いろいろ仕事をこなし、任せられる場面が増えてきているそうです。一方で、障がいのある方が、地域の中で共に働くということについて、障がいの理解、コミュニケーションの難しさ等の課題の提起もしていただきました。

各グループ（委員様）より

- ・保護者の方のここのまでの苦労はすごいと思う。屈せずチャレンジして行ってほしい。
- ・各校でそれぞれ悩みを話し合うだけではもったいない。全体で協議したり直接働きかけたりする場があるとよい。
- ・ユニバーサルデザインという言葉が出て久しいが、社会が追い付いていないという感想。ここは恵まれていると思う。だから、卒業して社会に出てもつながっておくとよい。
- ・皆さんと笑って泣いて、小中高全体でできること、積み重ねてできることがあればやっていきたい。
- ・働く場所で生徒への理解はまだ低い。学校が離れた後も継続して支援することが必要。（企業側は）受け入れるだけでなく、育ててほしい。そこに学校ももっと関わっていくべきではないか。

☆働き方改革について

本校の働き方改革について、昨年と今年の実績を報告しました。その後2、3人の小グループで意見交換を行いました。委員の皆様からいただいた働き方改革へのヒントやエールを紹介します。

- ・地域の方が、何をしてあげたらよいかわかりにくい。
→何を希望したいか、どんな力をかしてほしいか具体的に
- ・会議の流れ、ファシリテートの仕方など担当任せにしない
→先生が学ぶ機会を持てるようにする。
- ・効率化に目が向きがちだけど対話が大事。
- ・学校には感謝です。先生も元気に頑張ってください。

